

凜とした雰囲気の中、
歴史を肌で感じながらのご昼食。

国指定重要文化財旧遠山家住宅での、
美味しいおもてなし。

遠山家

ごはん



プロジェクト

重要文化財旧遠山家住宅

白川村を代表する名主(なぬし)住宅であり、近世白川郷の主幹産業であった焔硝(えんしょう)産業や養蚕業の発展に大きく寄与した家です。明治期に40人以上の家族が生活し、昭和初期の「大家族」制研究の舞台となった家としても有名です。昭和初期にはブルーノ・タウトや柳田國男をはじめ数々の研究者が訪れ「合掌造り」の存在が世に知られることになるのですが、遠山家は、常に「合掌造り」の価値や白川村独自の文化を発信する広告拠点として機能してきました。

文化財保存修理により平成29年に
リニューアルした国指定重要文化財旧遠山家住宅。
築167年という長い歴史を持つ、
村内屈指の巨大合掌造り住宅です。
昭和10年にドイツの建築家ブルーノ・タウトが訪れ「合掌造り」が
世界的な評価をうけるきっかけとなった貴重な文化遺産です。
この村の暮らしを象徴する重要文化財のお座敷で、
地域の食を存分に味わっていただける美味しいおもてなしです。
村内で人気の飲食店が腕を振るってつくった
格別の地場産弁当「遠山家ごはん」に舌鼓を打ちながら、
重要文化財と直に触れて、
村に息づく歴史を存分に感じてください。



昭和5年当時の遠山家